

一筆致啓上候、甚暑之節

御座候処、弥御安静被成御暮

珍重奉存候、然者去月十二日・

同十七日・去ル六日附共御状致

拜見候、左ニ御答ニ及ひ候、

一其御許様御儀始道中無

御滞、去月四日被成御帰着候旨

目出度御儀奉存候、

一御当地様出立之節被仰置候

御用立金之儀三拾両也、

御調達ニ而御差立被成候趣

致承知、則落手及上納候処、被懸

御心頭、早速御取賄有之候段、

御骨折之事ニ思召候、且其後

御問合之趣致承知候、被仰越

之通右金子之内拾両程当地

ニ而者何分ニ茂通用致兼候ニ付、

近国在方行之者江用ヒ方御頼ニ

相成候、若右二而も不通用二候ハ、  
無拋追而御差戻可被成候間、左様  
御承知可被下候、

一其許様御出府之節結構

被蒙 仰候二付、為御札御念書  
之趣且為御肴料

(三洲)

鍵之助様江 金貳百疋

奥方様江 同百疋

(三洲縫殿助)

御隠居様江 同百疋

自分共江 同百疋

右之通御贈被成候旨致承知、

則及御披露候処、御一統様不淺

忝思召被成御祝納候、御挨拶

之儀宜得御意被仰付候、拙子共

ニおゐても同様忝奉存候、且又右

御返状之儀早速差立可申処、

其後種々取込有之、其上先達而

(山本)

中御実家様御用ニ而勢左衛門義

相州江罷越、留守中御人少

彼は混雜取勝二而甚延引相成候  
之處、度々御状二候段御用捨  
可被下候、

一当年者甚大旱二而農業迷惑

之處、其後度々降雨有之御都合  
能植付相濟候旨日出度事二奉存候、

一御領知御割渡之儀御承知

被成度旨、未御沙汰無之故度々  
御伺御差出二相成候間、最早

無程被 仰渡可有之候奉存候、

一其御地米穀殊之外高直二而

御迷惑之趣御尤之御事二奉存候、  
御当地辻茂同様諸色格外二

高直二而甚迷惑之事二候、且當時者  
金札尅兩六拾匁通用二而都而

正金之儀者通用二出不申、兎角  
而已夫故歟別而諸品引上々申候、

此外文略不及御細答候、

右之段宜可得御意旨被仰付

如斯御座候、以上、

六月廿三日

山本錦次郎（黒印）

山本勢左衛門（黒印）

鈴木六太夫様

尚以時候御凌被成候様奉存候、

且御出府中者彼是取込罷在、

毎々失礼而已御用捨可被下候、

一勢左衛門義当月初旬御屋敷へ

引移り申候、為御吹聴得御意候、以上、